

第23回信州安曇野薪能の 火入れ役募集

文化課文化振興係
TEL 62・3090 FAX 62・3525

信州安曇野薪能が8月17日（土）、明科龍門湖公園で行われます。

開演に先立ち行われる火入れ式で、着物を着て会場に松明（たいまつ）を運ぶ「火入れ役」を募集します。

●**応募資格** 市内在住または通勤している満18歳以上（平成25年4月1日現在）の女性（高校生を除く）

●**募集人数** 1人

●**報償等** 1万円と「第23回信州安曇野薪能」招待券2枚。当日の振袖着付け・メイク代などは実行委員会が負担します。

●**募集締め切り** 7月12日（金）（必着）

●**審査方法** 7月中に開催される実行委員会で決定。結果は本人に通知します。

●**申込方法** 市販の履歴書に応募の動機と必要事項を記入の上、郵送するか窓口へ持参してください。

●**申し込み・問い合わせ**
〒399・7102

安曇野市明科中川手2914番地1

教育委員会文化課文化振興係
信州安曇野薪能実行委員会事務局

第4回 能面と能装束展

穂高交流学習センター「みらい」
TEL 81・3111 FAX 82・0966

第23回信州安曇野薪能の開催に先立ち、能楽師の故青木祥二郎さんと青木道喜さんが使用した能面や能装束などを展示します。

見る角度によって微妙にその表情を変える能面や、色鮮やかな染織に刺繍（しゅう）や金銀箔で文様を描いた能装束の数々を間近で観賞することができます。また過去の信州安曇野薪能の記録映像の上映も行います。

●**会期** 6月21日（金）～7月21日（日）

●**会場** 穂高交流学習センター「みらい」交流ギャラリー

●**休館日** 毎週木曜日

●**観覧料** 無料



故青木祥二郎さん
（観世流能楽師、安曇野市名誉市民）

「あづみの新進音楽家演奏会」を開催

穂高交流学習センター「みらい」
TEL 81・3111 FAX 82・0966

穂高交流学習センター「みらい」では、安曇野を拠点に活躍したい若手音楽家の発掘を目的に「あづみの新進音楽家演奏会」を開催します。この演奏会は、12月に予定するコンサートの出演者の選考も兼ねて行い、観客アンケートの評価も審査に反映されます。入場には整理券が必要ですのでご予約ください。

●**日時** 7月27日（土）

開演午後1時30分（演奏は約2時間）

●**会場** 穂高交流学習センター「みらい」多目的交流ホール

●**入場料** 無料・自由席

●**定員** 160人（先着順）

●**入場整理券の事前配布** 6月26日（水）から穂高交流学習セン

ター「みらい」窓口または電話で予約してください。（木曜日休館、開館時間は午前9時～午後9時30分）一人4枚まで予約が可能です、定員になり次第終了します。

安曇野ゆかりの芸術家3

「小林邦展」

豊科交流学習センター「きぼう」
TEL 71・4033 FAX 73・1802

自由で奔放な表現力を持った画家小林邦の作品の数々をご覧いただけます。小林邦の魅力と安曇野で育まれた文化の一端に触れてみませんか。

●**会期** 6月29日（土）～8月1日（木）

●**時間** 午前9時～午後6時

●**休館日** 月曜日、月曜日が祝日の場合はその翌日

●**会場** 多目的交流ホール

●**内容** 小林邦の描いた油彩画、水墨画、デッサンなど計50点程度

●**観覧料** 無料

関連企画「小林邦展」ギャラリートーク

安曇野ゆかりの芸術家3「小林邦展」の開催期間中にギャラリートークを開催します。小林邦に師事してこられた征矢野久（ひさ）さんが、展示作品や小林邦の生涯について分かりやすく解説します。

●**日時** 7月27日（土）午後2時～午後3時（終了予定）

●**会場** 多目的交流ホール

●**講師** 征矢野久さん

●**その他** 参加無料。事前の申し込みは必要ありませんので、気軽にご参加ください。



小林邦「原生林」

小林邦

旧南安曇郡西穂高村塚原出身（現：塚原区）の小林邦（1906～1990年）は、18歳の時に上京し、川端画学校に学び、小杉放庵に師事しました。帰郷後は、宮坂勝に師事し、国展をはじめ、春陽会展、国画会展、日展等への出品、県内においては中信美術展、県展へも出品し、高い評価を得ました。生涯絵描きであったその作風は、対象が単純化され、豊かな色彩で描かれています。その絵は、まるで子どもが描いたかのようでもあり、年を経るにつれ、その探求は深まりました。

豊科郷土博物館講座

「昔の暮らしを体験しよう！」

TEL 72・5672 FAX 72・7772
豊科郷土博物館

現在、安曇野に土間や囲炉裏（いり）のある家はいくつか残っているでしょう。昭和30年代までは当

ひら

7月の企画展 青樹会安曇野展～若手書道家が拓く明日の書、八人展～

貞享義民記念館 TEL 77・7550 FAX 77・7551

松本市に本部のある西村書道学園若手書道家による作品展を開催します。古典の臨書を基礎にしながら、自由な発想で新たな書の世界に挑戦しています。

●**期 間** 6月30日（日）～7月26日（金）

●**時 間** 午前9時～午後5時

●**場 所** 1階企画展示室

●**入館料** 無料（常設展は有料）

●**休館日** 月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）



田淵行男のガラス乾板写真展

田淵行男記念館 TEL 72・9964 FAX 88・2010

十数年前まで、写真はフィルムが主流でした。それ以前、明治から昭和にかけては、ガラスの板に感光乳剤を塗ったものを使っていました。田淵行男（名誉市民・1905－1989年）はフィルムが普及するまで、この重くて割れやすいガラス乾板を持って山や自然の写真を撮りました。今、デジタル時代に生きる私たちが撮影する写真とは一枚一枚の重みが違うのではないのでしょうか。本展ではガラス乾板で田淵が撮影したものの中から、山岳写真を中心に紹介します。

●**会 期** 6月5日（水）～10月20日（日）

●**休館日** 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）

●**入館料** 高校生以上 300円



田淵行男 1951年撮影
キヌガサソウ